

第2回

日本体育大学救命蘇生研究会

Challenge

— 新しい時代を拓く救急救命士の活躍 —



参加登録



参加費 無料

令和元年 8月24日(土) 9:30~17:30 (受付9:00~)

【基調講演】14:50~15:30

「東京オリンピック・パラリンピックにおける救急救命士の活躍意義」

日本医科大学 大学院 医学研究科 救急医学分野 主任教授
同附属病院 高度救命救急センター長

横田 裕行 先生

【教育講演1】9:40~10:20

「米国の救急医療体制とパラメディックの活躍」

Assistant Professor of Emergency Medicine Section of Prehospital and Disaster Medicine Department of Emergency Medicine
Emory University School of Medicine
Medical Director, Metro Atlanta Ambulance Service

中嶋 優子 先生

【教育講演2】11:25~12:05

「救急救命士の活躍の場のさらなる広がり」

救急救命東京研修所 教授

田邊 晴山 先生

【特別講演】16:30~17:10

「救急救命士の資格とわが人生」

救急救命士・看護師

辻内 三佳 様

主催：日本体育大学 保健医療学部 救急医療学科・共催：東京消防庁 救助救急研究会

会長：小川 理郎（救急医療学科 学科長）

場所：日本体育大学 東京・世田谷キャンパス 1301教室ほか（世田谷区深沢7-1-1）

内容：救急医療学科 在学生・卒業生・教員・医療従事者による研究発表と意見交換

参加費：無料（救急蘇生学・災害医療学に興味のある方はどなたでも参加できます）

問合せ先：救急医療学科 中澤・堀口・宇田川 電話 045-507-7294 内線 879

メール nakazawamayumi@nittai.ac.jp

学生問合せ：小玉 メール 19rma03@nittai.ac.jp

懇親会のご案内 時間：18時~20時（予定）会場：Nレストラン(キャンパス内) 会費：1,000円

※当日受付で参加の有無の確認をさせていただきます。

昨年の様子



演 題 一 覧

口演① 10:25～11:25		災害	～Confront in Disaster～	座長：田畑 龍正（救急医療学科 3年） 助言者：山藤 伸雄（救急救命専門指導教員）
学生の消防団への参加と団員の在り方		救急医療学科	4年	秋月 亨太
AEDの普及について～AEDマップの効果検証～		救急医療学科	1年	小林 優輝
スマートフォンを用いた救護活動		救急医療学科	2年	一宮 大城
水辺でのボランティアの形～子供たちの笑顔を守るために～		救急医療学科	1年	馬場 俊
指導的立場となる学生インストラクターの意義		救急医療学科	1年	鈴木 紀子
いつ起こるかわからない災害の対策について～災害ロジスティクスについて～		救急医療学科	1年	大山 凌治
新しい支援のかたち～平成30年西日本豪雨災害のボランティア活動報告～		救急医療学科	2年	長内 彩乃
口演② 12:50～13:50		教育	～Persistence makes perfect～	座長：秋月 亨太（救急医療学科 4年） 助言者：原田 諭（救急救命専門指導教員）
一次・二次医療機関での病院実習後、救急救命士学生の変化とそれぞれの課題 ～新カリキュラム「病院実習Ⅰ」を終えて～		救急医療学科	2年	高橋 健
救急医療学科の野外活動実習(海)の有用性と今後への期待		救急医療学科	1年	小林 佳史
野外活動実習Ⅰ(海)における救助訓練の意識調査について		救急医療学科	1年	吉澤 美海
救助救命医療学演習においてJPTECファーストレスポnderコースの実施する意義について		救急医療学科	1年	香月 綾乃
初めての山口県消防研修(原田ゼミナール)に参加した学生の意識変化について		救急医療学科	2年	大笹 晃嵩
電車内における救護活動の意義		救急医療学科	1年	濱 京志朗
自殺者と向き合っていく～それぞれの命の選択～		救急医療学科	1年	福永 さやか
口演③ 13:50～14:50		救急	～Sheds light on the dying life～	座長：郡 愛（救急医療学科 4年） 助言者：鈴木 健介（准教授）
救急救命士科の創設と病院救命士の未来		平成立石病院 救急救命士科		川原 菜々
民間救命士としての活躍		医療法人伯鳳会東京曳舟病院		野添 めぐみ
病院救命士による病院救急車の運用と効果		平成立石病院 救急救命士科		相原 慧
脳卒中疑い傷病者の対応救護活動と救護ボランティアの意義について		救急医療学科	3年	田畑 龍正
社会復帰に成功させた心肺停止傷病者の症例報告		救急医療学科	3年	古正 凧沙
日体大 救急医療学科での4年間を終えて		2期卒業生		黒柳 涼介
がんばるんじゃなくて、ただあきらめない。		2期卒業生		堤 千保
口演④ 15:35～16:30		国際	～Without dreams you can't succeed～	座長：北野 信之介（修士課程 2年） 助言者：中嶋 優子（米国エモリー大学）
I learned Medical English in UMBC		救急医療学科	2年	山田 桃由
Med-Ride (Rescue Squad Company 2)		救急医療学科	2年	天野 智仁
第4回のシアトル救急車同乗実習に参加して感じたこと		救急医療学科	2年	田中 遥也
シアトルの救急システムを体験して		救急医療学科	4年	郡 愛
スリランカのテロとこれからの救急医療		救急医療学科	2年	カンカーニゲ・サチン
Studying in Philippines which does not only learn English		救急医療学科	3年	土肥 莉里香
ポスター 12:30～13:50 (1302教室)		挑戦	～It makes sense to keep trying～	座長：岩田 安史（救急医療学科 3年） 助言者：藤本 行和（東京消防庁救助救急研究会）
救急救命士によるディスパッチシステム～米盛病院での7日間研修を終えて～		救急医療学科	3年	小山 幹也
教職員を対象とした救命蘇生法講習会の活動報告		救急医療学科	2年	篠田 櫻
効果的なシミュレーション実習への学生補助（Student Assistant）の実態と今後の展望		修士課程	1年	小玉 響平
IT企業に所属する救急救命士だからできること		NTTグループ 日本情報通信株式会社【NI+C】		西本 好希
救急救命士養成課程の学生におけるロジスティクス研修の必要性について		救急医療学科	3年	栗屋 天翔
救急医療サークル“NEXT”の活動について		救急医療学科	2年	高山 航
医療系学生による血圧測定における聴診法と触診法の正確性の検証		修士課程	2年	北野 信之介
一般人と協力し合うことの難しさ～頭部保持の壁～		救急医療学科	3年	坂元 ひより
第1回山口県消防研修(原田ゼミナール)の活動報告～プロから学んだ姿勢と責任～		救急医療学科	2年	長岡 春樹